

この数日急に朝夕の冷え込みも厳しくなり冬の気配を感じています。深まり行く秋、雲の動きにも季節の変わりめを感じる毎日です

さて、秋は実りの季節、物静かな季節です。豊かな実りに感謝すると同時に、心静かに風の音に耳を傾ける、そんな気分になる季節かもしれません。生徒には学習にスポーツ・文化活動に打ち込むとともに、しっかり自分を見つめる季節にして欲しいと思います。

本校では、10月25日(月)に始業式を行い後期のスタートをきりました。11月にはふれあい文化旬間として、9日(火)に「心を伝える」をアルソックホールで、また月12日(金)には「展示見学会・ステージ発表」を安佐中学校で計画しています。生徒達は今、各学級・部活動で練習と準備を重ねています。保護者・地域の皆様方には、是非来場いただきご声援いただければと思います。

また、この深まり行く秋、読書週間(10/27～11/9)が始まっています。読書週間は日本の国民的行事として定着してきています。しかし、最近は電子メディアの発達によって、情報伝達の流れは大きく変わり、昨年から活字離れがいられています。学校では毎朝8時30分から10分間、朝読書の時間を設け、読書活動をを行っています。生徒には、ぜひ書に親しみ読書の習慣を身につけ、考え深い生徒に成長して欲しいと願っています。親子で読書に親しみ、読んだ本について話題にしてみてもはいかがでしょうか。

基礎学力定着に向けて工夫・改善を行っています

本校では、生徒の表現力やコミュニケーション能力の向上を通して「できた、わかったを実感させる授業」「授業に興味を持てるような工夫」などをポイントとして授業改善を進めることにしています。そのために研究主題を「自ら学びを追求する生徒の育成～相手を意識した表現力の向上を通して～」とし、次のような取組を進めています。

教員5人程度の小グループにより、授業を公開し参観した後、研究協議を行う。

6月に校内授業研究会、11月に公開授業研究会を開催し、研究協議を行う。

大学より研究アドバイザーとして講師、教育委員会より指導主事を招聘し助言を受ける。

相手を意識した表現力の向上を目指した授業を創造する。

- ・有効なコミュニケーションをさせるため「自分の考えを持つ」活動を取り入れる。
- ・一人ひとりの学びをつくるために、小グループの活動を活用する。
- ・学びの質を高めるために、自分の考えを表現し仲間と共有させる。
- ・活用・探究型の授業づくりとのバランスをとりながら、その基盤となる授業規律の確立や習得型学力の定着を図る。

(裏面に続く)